

仲よし幼稚園のおおきなすずかけの木

起こりませんでした。

もうひとつの不安はお便所でした。下が見えるぼっちゃん便所でしたので、大切な子どもたちが落ちたらどう



# 七つの娘 (19)

松柴文子



まつしば・ふみこ。1946年和歌山県湯浅生まれ。七人姉妹の七女。「へこたれず、共働き・共遊び」をモットーに20歳から60歳の定年まで習志野市立幼稚園や市役所に勤務。船橋市習志野台在住。

仲よし幼稚園周辺は鉄道連隊の名残が：

半世紀前にさかのぼりますが、船橋市前原東に住んでいた私は仲よし幼稚園まで自転車通勤していました。国鉄津田沼駅の北口からは警手さんのいる踏切を渡って南口に行きました。ちょうどいまの千葉工業大学のレンガの門を通り、カラタチの垣根沿いに習志野市立第一中学校、その隣に仲よし幼稚園がありました。

明治から昭和初期にかけて大久保には騎兵連隊、津田沼には鉄道連隊があり、千葉工業大学の赤レンガの門は陸軍鉄道第二連隊の表門として使われていたもので、古い歴史を持つ門は現在登録有形文化財として保存されていますがその周辺は時代とともに公園や文化ホールに変わりました。

## ギロチン窓とぼっちゃん便所

幼稚園の施設も鉄道連隊の兵舎の名残がありました。

しようとはらはらしていました。が心配ご無用、当時の子どもたちは上手に用を足していました。窓の開け閉めは子どもではできない、保育室から離れたところにあるトイレなので新米の私は不安、不安の毎日でした。

## 長い距離を園児は徒歩で登園

東は津田沼駅の北口藤崎の境、南は鷺沼、久々田、袖ヶ浦、西は谷津と船橋の市境から暑い夏も寒い冬も毎日毎日親子が徒歩で通園してきました。遠い子どもは一時間近くかけて登降園していました。

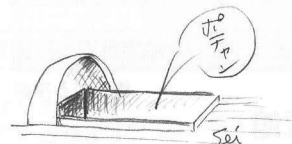
もちろん道草をしながらだと思いますが、よくまあ遠くから歩いてきたものだと今振り返ってみると本当に感心してしまいます。

袖ヶ浦団地の入居が始まったのは昭和42年でしたのでバス通園の子どもの多く、他の乗客から車内での行儀が悪く、園はどんな躰をしているのかなど

廊下の窓ガラスは懸垂式になっており、別名ギロチン窓と言います。園児が顔を出した時に窓が落ちてきて事故が起きないかととても心配でしたので、窓を開けた時は隅に角材を置きました。しかし窓は大変頑丈でした。作りとした作りであるために事故など全く



懸垂式マド (ギロチンマド)



ぼっちゃん便所

と苦情がありその対応を考えました。園児の生活は八時三十分登園し二時降園でした。

降園は教師が園児を一定のところまで送り届けることになっていました。で、袖ヶ浦方面を担当した教師は子どもたちと一緒にバスに乗り他の乗客の迷惑にならないような車内マナーを教えました。私は園の正門から十四号線に向かう一本道を引率しました。道路の歩き方、京成電車の踏切の渡り方等々を教えながら今の向山小学校のお墓の先まで歩き、お子さんをお迎えしている親御さんに渡しました。

往路は子どもたちとお話をしながら歩いていきますので目的地まではあつという間についてしまいますが復路はひとりで園まで帰りますので同じ距離でもとても長く感じました。当時は車の往来も少ないので一人で子どもの送りが出来ましたが、今はとても怖くて出来ることではないですね。